

鹿児島港本港区エリアの利活用のアイデア応募

鹿児島ウォーターフロント計画案

「鹿児島島の海と陸の汽水域」

きすいいき

竹添星児 2023.7.24



自己紹介



竹添星児 (イラストレーター/42歳)

- ・ **始良市出身一徳之島一さつま町在住**
- ・ **県内各地の観光マップ・ポスター・お土産デザインに関わる**
- ・ **趣味はサイクリング/温泉/夕日鑑賞**

制作物一例



自己紹介

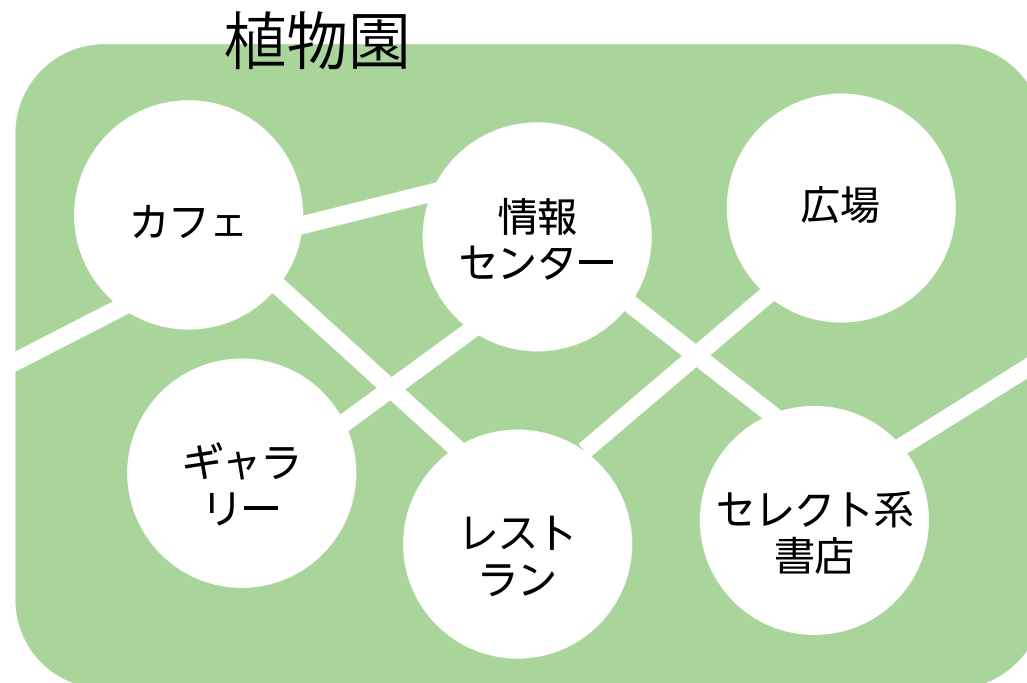


応募の動機

- 桜島の「景観」を大事にしてほしい
- みんなが気持ちよく過ごせる「居場所」が欲しい
- 海からの玄関口であり、離島とのハブエリアとしての視点を持った場所となって欲しい

「鹿児島^{きすいいき}の海と陸の汽水域」

離島を含む鹿児島県内から集められた樹木・植物・花が楽しめる「**植物園**」をベースに、
点在する**サテライト**(**現代美術館・レストラン・カフェ・ステージ**)を
きっかけに**周遊・滞在**を促し、ベイサイドの価値を感じられる、
憩いと交流のエリアとする



イメージ図

応募案)エリアのイメージイラスト



Illustration : seiji takezoe

応募案)エリアのイメージイラスト<補足>

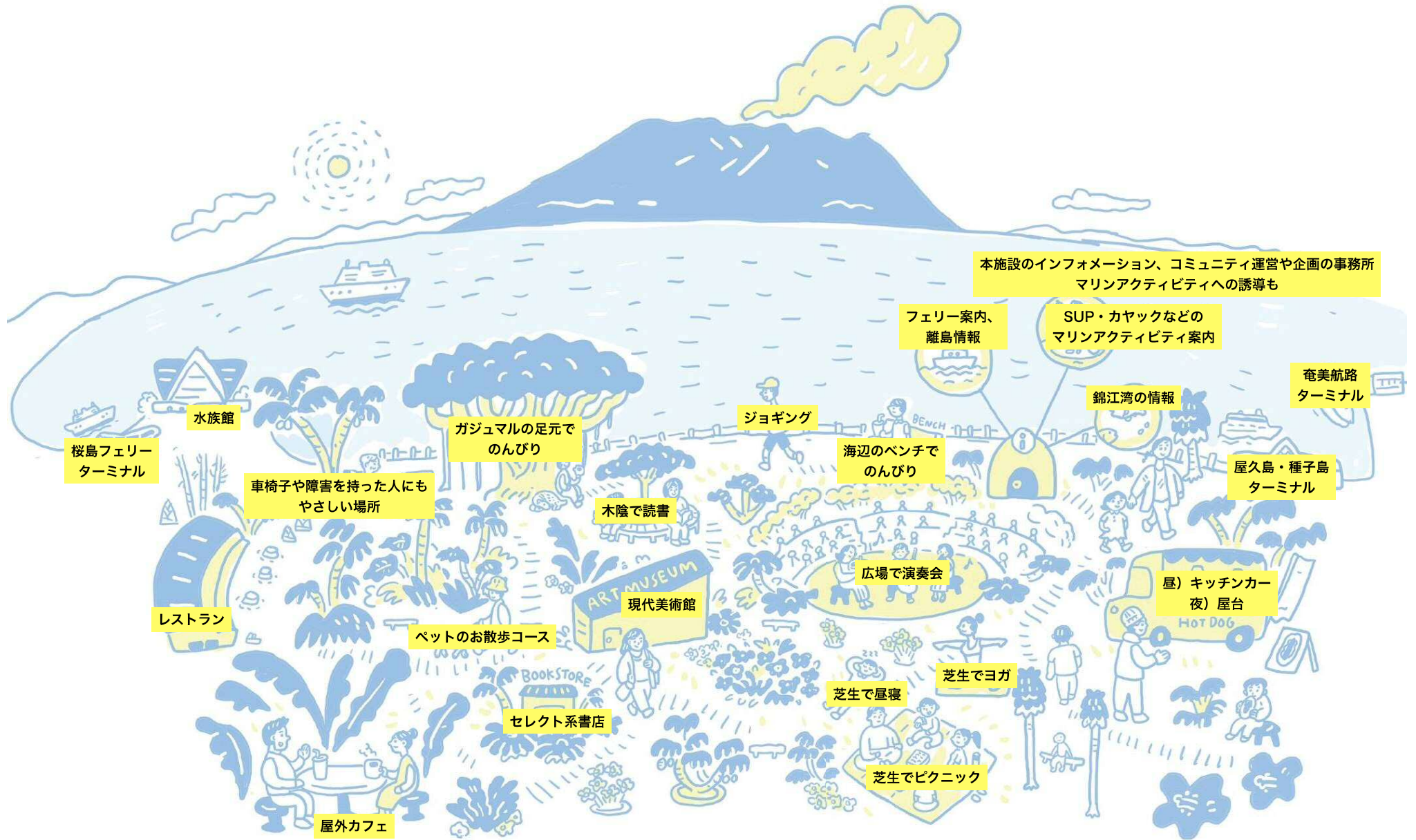


Illustration : seiji takezoe

補足)アイデアの意図①

●離島と本土の**交流**エリアとして

本ウォーターフロントエリアは、桜島フェリー、種子島・屋久島フェリーターミナルに徒歩圏内であり、奄美航路とのアクセスも良好な場所である。

「汽水域」のように、離島と本土の「ヒト・モノ・コト」が混ざり合い、新しい「鹿児島ならではの」価値を生まれることを期待して、特産品イベントを開いたり、アーティストとの交流イベントを積極的に開催する。



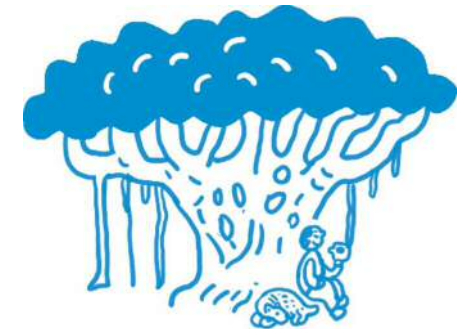
●桜島を望む最高のロケーションで**憩い**の場として

世界的にみても貴重な「活火山を望むロケーション」を生かし、住民や観光客がのんびりと過ごせる場としたい。旅のスタイルも、短期で観光名所をめぐるスタイルから、中長期に居心地の良く「生活する」スタイルの旅へと移行している。このエリアを鹿児島の代表的な憩いのエリアとすることで、鹿児島全域の「ベイサイドの価値」の波及効果も期待したい。ベンチを多く設置し、昼は「キッチンカー」夜は「屋台」が出店できるようにして、人が集まる憩いの場所とする。芝生や木陰では、ピクニックや昼寝を楽しめる。ペットも立ち入り可能とする。



●自然遺産やジオパークを持つ鹿児島の**自然**の魅力が詰まった玉手箱として

ハコモノは年を重ねる毎に劣化していき、数年おきに大きな改修費が必要となるが、年を重ねて植物は育つごとに場の価値は高まっていく。100年後、500年後にはさらに価値が大きくなるはず。シンガポールの「Gardens by the Bay」やシドニーの「Royal botanic garden」など海辺の植物園は、観光地としても人気である。南北600kmにおよぶ鹿児島県内各地から集められた植物は、見応えのある空間になることは間違いありません。世界自然遺産「屋久島」「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」、ジオパーク「霧島ジオパーク」「桜島・錦江湾ジオパーク」「三島村・鬼界カルデラジオパーク」など、鹿児島県＝「自然の価値」が高いことをこの場で象徴的に示すことで、それらのエリアへの波及効果もあるはず。また、自然の中で過ごすことでメンタルヘルスやウェルネスにも効果的です。



補足)アイデアの意図②

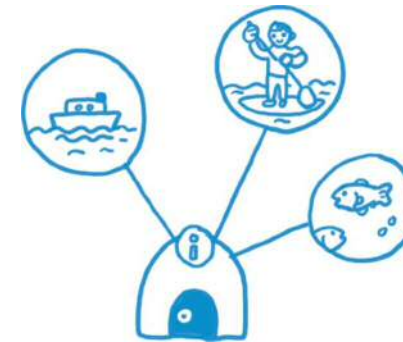
●アートや音楽などが楽しめる、鹿児島島の**新しい文化ゾーン**として

エリア内は極力人工建築物は持たせないものの、サテライトとして「現代美術館」「小規模の屋外ステージ/イベントスペース」を設ける。ここでは県内の若手アーティストの発表の場として、足を運ぶきっかけとして機能させる。美術館は平日も足を運びやすい数少ない箱モノである。クラシックな作品を取り扱う「城山エリア」とは差別化し、若手発掘していく場としたい。運営団体が適切にキュレーションを行い、アーティストを育てる場、市民がアートを活用できる補助役としても機能させる。セレクト系書店をサテライトとして設置し、エリア内の木陰のベンチで読書も楽しむことを促す。



●鹿児島湾(錦江湾)の**ブランド価値・情報発信基地**として

インフォメーションセンターでは、このエリアだけでなく「鹿児島湾で楽しめるアクティビティやイベント」「離島で楽しめるマリンアクティビティ」「錦江湾一周サイクリングルート」の情報についても取り扱いお客さんがそれらを知り、セレクトすることができるようにする。民間事業者の情報を集めるだけでなく、利用が促進されるようサポートも行う。近隣のフェリー乗り場や水族館とも連携する。



●誰もが自由に使える**遊び場**として

広場やフリースペースでは、申請すれば誰でも「ヨガ」や「マーケットイベント」「演劇祭」「音楽祭」を行うことができる。バリアフリーにも配慮し、来る者を決して拒まないウェルカムな雰囲気的空間とする。利用用途・客層が固定されるスタジアムや体育館よりも、誰でもアイデア次第で遊び場になる場所のほうがこれからの公共空間として望ましいと考える。



応募案)アイデアのヒント①

オペラハウスをモチーフとした「かごしま水族館」が存在することもあり、シドニーのシーサイドエリア「サーキュラーキー」をヒントとしたい。



植物園



オペラハウス



(google earthより)



屋外レストラン



現代美術館

ベイサイドエリアは

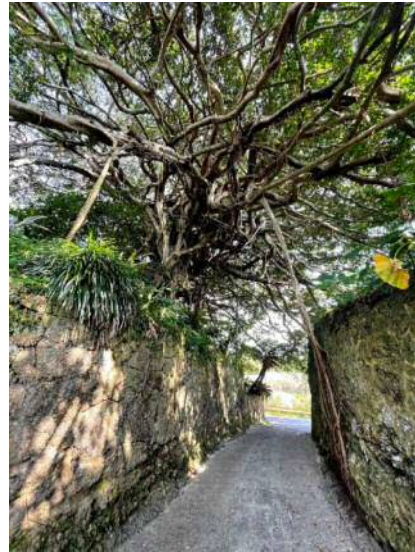
- ・フェリー乗り場
- ・ホテル
- ・クルーズ船寄港地
- ・歴史スポット

なども点在している。

オペラハウスがシンボルとした人気の観光エリアであるが周遊する楽しさ、のんびりと滞在できる雰囲気がある。

応募案)アイデアの意図②

鹿児島県の魅力の一つは**南北に長い地形が生み出す「南国の多様な植生」**である。
特に南国の野生味溢れる植生は強烈に「旅」のイメージを想起させつつも
居心地の良く過ごせるスポットとなるはずである。
※これができるのは日本では鹿児島県しかないと思っている。



**本エリアが、離島を含む鹿児島県の
「自然の中で豊かに暮らす」
シンボルゾーンになってほしい。**